

評価会議（令和元年度期末）における委員の評価及び意見

受託者等に対する評価

1 項目ごと評価

評価項目			A 委員	B 委員	C 委員
支援の内容および効果等	協議会の取組 （イメージ） 自律的運営に向けた地域活動	(1)「地域課題への取組」にかかる支援の状況（実績）及び効果等 (配点 5 点)	4	3	4
		(2)「つながりの拡充」にかかる支援の状況（実績）及び効果等 (配点 5 点)	4	4	5
		(3)「組織運営」にかかる支援の状況（実績）及び効果等 (配点 5 点)	4	3	4
	事業の実施体制等	(1) 自由提案による地域支援の状況（実績）及び効果等 (配点 5 点)	4	3	4
		(2-1) スーパーバイザー、アドバイザー及び地域まちづくり支援員の体制にかかる支援状況（実績）及び効果等 (配点 5 点)	4	4	4
		(2-2) フォロー（バックアップ）体制等にかかる支援状況（実績）及び効果等 (配点 5 点)	4	3	4
		(3) 区のマネジメントに対応した取組にかかる支援状況（実績）及び効果等 (配点 5 点)	5	4	4
	策（取組） 今年度の重点支援	区の方針・戦略を踏まえた今年度の重点支援策（取組）にかかる支援状況（実績）及び効果等 (配点 5 点)	4	3	4

主な意見等

- ・まちカフェの継続は優れているが、どうして続けていけているかの分析が欲しい。
- ・つながリストは優れた仕組みであるが、次々と仕掛けをしていく必要がある。
- ・多文化共生のとりくみは他のお手本になるのでもっと詳しく示していただきたい。
- ・区担当者と受託者の役割分担とコンビネーションが明確である。
- ・地域活動協議会間の落差の激しさ、新たな担い手の発掘が課題というのは正しい。
- ・カルテの作成と課題の見える化は正しいが、その段階に応じた方策がより詳しく示していただきたい。
- ・地活協事業の棚卸がもっと必要ではないか。
- ・つながリストの作成、活用に期待したい。「まちカフェ」は開催場所を固定したとのことだが、

それでは遠方の人が来づらくなるので、時には違う場所で特別編のようなかたちで開催することも必要ではないだろうか。

- ・虎の巻会議の展開、定着化が望まれる。
- ・単発で終わらない取り組みが必要。次世代や外部の人が参加しやすい、ずっばり組織に入るのではなく、協力者として登録するなどの仕組みを地域とともに考えていただきたい。
- ・連続テーマミーティングとして選んだお題は、役員以外の人でも議論しやすく関心が高いテーマだと思う。言いつばなしに終わらず「では何ができるか」の検討に入っていただきたい。
- ・自らの立ち位置を意識しつつ、活動がマンネリすることへの警戒感も持って、「10 年後へのバトンタッチ」など世代交替に注力しておられるのは、とても良いと思う。
- ・進捗状況の違いを、区としてどう受け止めているのか。まだ基本的な組織運営が出来ていない地域を、誰が、どのようにサポートしていくのか委託者とよく話し合い、齟齬がないようにしていただきたい（「地活協の理念の浸透」という面では区の役割が大きいと思う）。
- ・世代間交流や多文化共生の取り組みを、それが得意な委託者にリードしてもらう方針は適材適所で良いと思う。事業の「選択と集中（前提としての棚卸）」は必要だが難しい作業なので、区の担当者も委託者とともに汗をかいていただきたい。
- ・当区に限らず外国籍の方がこれから増えていくと思われますが、日本で生活するには不便な点が多いと思われます。そういった意味でサラダボウルプロジェクトを更に進化させ、他地域のモデルとなれるように外国籍の方の相談・支援、地域への参画をどんどん進めて頂ければと思います。

(採点基準)

- 5 点：期待レベルをはるかに上回っている。
- 4 点：期待レベルを上回っている。
- 3 点：概ね期待レベルに達している。
- 2 点：期待レベルを下回っている。
- 1 点：期待レベルに全く達していない。